

## 日程第2．一般質問

### ○議長（松尾徹郎君）

日程第2、一般質問を行います。

発言通告者は17人ですが、議事の都合により、本日5人、2月28日5人、3月1日5人、3月2日が2人を予定しております。

一般質問の質問時間は、答弁を除き、1人30分以内であります。所定の時間内に終わるよう、質問・答弁とも簡潔に要領よくお願いいたします。

また、質問は通告の範囲内にとどめるよう、通告外にならないようご協力をお願いいたします。通告順に発言を許します。

伊藤 麗議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

### ○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。〔6番 伊藤 麗君登壇〕

### ○6番（伊藤 麗君）

おはようございます。清新クラブ、伊藤 麗です。

事前に通告いたしました通告書に基づきまして、1回目の質問を行います。

1、糸魚川市における地域医療構想について。

昨年8月7日に「腓（すい）がん～最新の医療を知ることからはじめよう～」、今年2月12日に「これからの地域医療を考える」と、2回にわたり市の主催で地域医療フォーラムが開催されました。第1回は約200人、第2回は約110人の市民の皆さんが最新の医療、地域医療の実情と地域医療構想の方向性について関心を寄せ、理解を深める機会となりました。

(1) 地域医療フォーラムに参加した市民の皆さんからアンケートで寄せられた感想は、どのようなものだったか伺います。

(2) 地域医療体制の確保についての課題と、市が行っている取組について伺います。

(3) 糸魚川総合病院における診療科数は今後どのように推移・変化していくのか、開業医による診療所の数はどのように推移していくのか、見込みを伺います。

2、子育てに関わる施策と公の施設の在り方について。

2月15日に新潟県の新年度予算案が発表されました。花角県知事は記者会見で「子育て支援を大きな柱に据えて、若い世代に新潟が選ばれるような環境をつくっていきたい」と語っておられました。市としても国や県と同じ方向性で子育て支援に注力していくという前提で、ソフト・ハード両方から、糸魚川で生まれ育つ子供たちへの支援について、以下質問いたします。

(1) 現行の子育て支援策の中で、新年度以降、拡充予定のものがあるか伺います。

(2) 発達支援と障害児福祉について、課題と取組を伺います。

(3) 糸魚川市子ども一貫教育を根幹とした公立保育園、学校教育系施設、子育て支援施設の適正配置について、今後の展望を伺います。

(4) (仮称) 駅北子育て支援複合施設について、立地適正化計画を含めた駅北エリアの復興デザインと市全体の子育て支援の拠点づくりをどのように両立させ、未来につないでいく施設

とするのか伺います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

伊藤 麗議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の 1 点目につきましては、将来の地域医療体制の不安解消に取り組んでほしいとの要望のほか、地域医療の現状や課題を知ることができ、参考になったという意見が多く寄せられておりました。

2 点目につきましては、医師、看護師などの医療人材を確保するため、医学生や看護学生などに対する修学資金の支援、小・中・高校生への啓発活動、富山大学等への医師派遣要望に取り組んでおります。

3 点目につきましては、人口減少に伴う医療需要の減少や開業医の高齢化に伴い、診療科目、診療所数ともに減少するものと考えております。

2 番目の 1 点目につきましては、子ども医療費の無償化や子育て世帯ヘルパー派遣の開始、放課後等デイサービス事業の新規開設のほか、産後ケアの拡充などを予定いたしております。

2 点目につきましては、多様化するニーズに対し、きめ細やかな支援をどう提供するかが課題と捉えております。引き続きニーズを把握し、必要なサービスの提供に努めてまいります。

3 点目につきましては、少子化による人口減少が見込まれることも踏まえ、地域の要望なども把握しながら、適正な配置となるよう検討してまいります。

4 点目につきましては、都市機能を集約しつつ、少子化に対応した子供を産み育てやすい環境整備に向け、駅北子育て支援複合施設の整備を計画しているところであります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6 番（伊藤 麗君）

それでは、2 回目の質問に移らせていただきます。

地域医療フォーラムの開催に対して、市民から喜びの声が多かったということで、よかったです。また、手話による通訳があったり、子供預かりの実施をしていただいたところで、広く市民に参加していただくという姿勢をこう見て取ることができたので、そこもすごくよかったですと思います。

一方、市長答弁でもあったように、将来の地域医療体制についての不安、そちらを解消してほしいとのご意見に、私も全くの同意見でございます。

1 回目の臍がん医療に関するフォーラムでは、糸魚川総合病院で行われている最新医療の紹介だったこともあり、そちらに関しては市民に安心感を与える内容だったと考えております。

ただ、2回目のフォーラムでは、新潟県の掲げる医療構想は、集約化、役割分担の明確化が強調されておりまして、糸魚川の立地を考えれば、市民が不安を覚えるのも無理はなかったのではないのでしょうか。

皆さんが抱える医療に対する不安と向き合い、よりよい地域医療を目指し、安心して暮らすために、以下質問をいたします。

(1) についてです。当日実施したアンケートについてお伺いしたいんですが、皆さんから医療に関する関心事で目立った項目というのは何だったんでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

アンケートでは、様々な意見が寄せられておりますけれども、特に目立つのが救急医療体制、それから、医師、看護師の確保のほか、医療体制が集約されることへの不安、それから、周産期医療に対する意見がとても多く寄せられておりました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

私も皆さんと同じような部分で心配を感じましたので、私の中でも気になった点について、人材の確保であったりだとか集約化についてがメインなんですけれども、質問を進めてまいりたいと思います。

それでは(2)です。ご答弁をお伺いいたしまして、糸魚川市の地域医療確保においては、人材の確保が課題なのだとことを理解いたしました。医療人材確保については、市民の皆さんからも関心が寄せられたということだったのでお伺いしたいんですけれども、未来の医療人材を育てるために啓発を行うというのは大賛成なんですけれども、啓発だけではなくて、実際に、教育、医療現場、医療を担う人材を育てるための教育を行うことが、次のステップなのではないのでしょうか。

看護師等養成所設立に向けた検討が第3次総合計画に掲げられておりますが、そちらの進捗と高校魅力化の取組として、糸魚川高校に医学部進学コース、白嶺高校に職業科として看護師、介護士の資格が取れる学科を創設するというご提案をしたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

健康増進課からは、看護師等の養成施設の設立に向けた進捗について、答弁をさせていただきます。

昨年も市長と上越、それから長岡にあります看護専門学校を訪問しまして、意見交換をさせていただき、設立の可能性について探ってきたところであります。また、JA新潟厚生連でありますとか、県の福祉保健部に対しまして、設立について要望をさせていただいたところでありますけれども、

県内の状況を伺うと、多くの学校で定員割れをしておると。また学校数も他県と比べて新潟県は多いというお話を聞かせていただいております。

これまでも努力してきておりますが、正直、現状では厳しい、今のところは厳しいというふうに考えておりますけども、引き続き努力を続けさせていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

おはようございます。

それでは、高校の部分につきまして、教育委員会からお答えをさせていただきます。

新潟県内、また近くの県外の高校におきまして、医師、歯学、薬学系の進学に向けましたメディカルコースであるとか、あと高校3年間に加えまして、その後の2年の専攻科に進むことにより、看護師の国家資格試験の受験資格、また、介護の資格を取得できるコースがあるということを確認しております。

高校につきましては、県が所管になるわけですが、市内高校での専門学科の設置であるとかコースにつきましては、引き続き調査してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

新設で学校を造るといのはとても難しい、ハードルが高いというのは理解したんですけども、高校の魅力化という視点で学科の創設であれば、校長先生のご意向ももちろんおありだとは思いますが、相談をして、取り組んでいくことが可能性としてはあるんじゃないかなというふうに思いましたので、ご提案をさせていただきました。前向きに取り組んで検討していかれるということでしたので、引き続き教育という視点から人を育てるところでお願いをしたいところでございます。

次の質問なんですけれども、医療人材確保対策事業で展開されている各種助成金について、お伺いいたします。

直近での成果と、その成果の原因、理由をどのように分析されていらっしゃいますか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

医師につきましては、平成20年度以降、現在までの貸与者総数については、14名に修学資金を貸与しております。そのうち7名の方から、糸魚川総合病院で勤務をいただいております。

ところが、令和元年度以降、新規の貸与者がいない状況となっております。制度をスタートした

ときは、糸魚川市が新しく制度を設けてスタートしたんですけども、今ですと、割と他の自治体もこういう制度を設けておるもんですから、恐らくそちらへも流れておるんでないかなというのが、今増えていない一つの要因だというふうに考えております。

それから、看護師等の医療技術者につきましては、平成17年度以降136名、そのうち62名の方が、市内医療機関に就職をしております。直近ですと、令和3年度の貸与終了者4名のうち、3名が市内で就職をしております。金銭面の支援ということで、この制度が看護師を目指す一つのきっかけになって、市内の就業につながっておるんでないかなというふうに分析しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

医師については、令和元年度以降ゼロ人ということで、ほかの自治体の、もしかしたら助成制度をご利用されていらっしゃるかもしれない状況ということで理解いたしました。引き続き、皆さんのニーズというか医学部目指される皆さんの気持ち、もしかしたら、糸魚川市ですぐに就職はできないと思うから、ほかの自治体のものを使おうというふうに変ってきているかもしれません。この制度使ってもらいたいものなのかどうか、そういう部分をちょっとお伺いしたいんですが、ほかの自治体のものを使って医師が育っていけばいいのか、それともやっぱり糸魚川市で育って行って、糸魚川市に残ってほしいという気持ちがあるのであれば、その制度の内容も、また見直す必要があると思うんですが、その辺りいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

制度を使うことによって、糸魚川市に就業していただけるということですので、市の制度はお使いいただきたいと思います。

ほんの最近ですけども、実は2件ほど問合せがありました。それについては丁寧に説明をしながら、糸魚川の魅力も同時に伝えて、この制度を利用していただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

看護人材におきましては、62名の方が今、糸魚川市内で活躍されてらっしゃるということなんですけど、令和3年度は4名中、3名、糸魚川総合病院に就職されたということなんですけど、就職して終わりではなくて、その後、看護師という仕事を続けられるように、この制度を使った皆さんをその後フォローしていくような体制とか、やり取りというのはあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

特に、行政のほうでフォローということは、実際のところには行っておりません。

ただ、看護師については、病院勤務になりますと、夜勤があったり、また結婚されて出産をするようになったりすれば、また大変な苦勞もあります。そういうところのサポートについては、例えば糸魚川総合病院と連携しながら、何かそういう環境づくりをしていきたいというふうに考えております。

最近ですと、看護師さんが休んでいただくような休憩施設等の病院の施設整備に対して、市のほうでも補助をさせていただいております。そういう形で、今後も病院の看護師さんが働きやすい環境づくりに努めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

助成金は、お渡しして、市内に勤めてもらって終わりだと、少し乱暴に感じました。その後のその方の就業状況だとか、できればコミュニケーションを取って、寄り添って、その後も看護師として活躍していただけるようにフォローしていただきたいなと思います。

（3）について、2回目の質問を行います。

病院診療科の集約化と役割分担に伴って、糸魚川総合病院の役割は、どのように変わっていくとお考えでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

人口が減少していきますので、医療需要もそれに伴って減少していくというふうに考えられます。そうなりますと、やはり診療科目については、数はそんなに減らないと思いますけども、ある診療科目については、その診療日が縮小されたりということになってくることは想定されます。糸魚川総合病院においては、今、常勤医、それから派遣医ということで診療科目を維持しておりますので、引き続きその診療科目の維持については、行政も協力しながら取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

その縮小というのが、市民にやはり不安を与える一因になると思います。

また、診療所が減るとということは、糸魚川総合病院の担う役割の中で、かかりつけ医としての役割が大きくなるのではないかなというふうに考えます。このことで、救急拠点型の位置づけから地域密着型への転換が迫られてしまうことを懸念いたしますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今おっしゃるように、開業医、個人のクリニックが減ることによって、じゃあ糸魚川総合病院は、今度そのかかりつけ医の役割まで担う必要が出てくるというふうに私も考えます。そうなると、糸魚川総合病院の役割が増えるわけですので、ただ、人材が増えるわけではなく、負担だけが大きくなるのが懸念されます。

ただ、糸魚川総合病院が今行っております救急というのは、この地域において唯一の施設でありますので、これについては維持していきましますし、糸魚川総合病院、それから医師会と協力しながら、この体制については、しっかり確保できるよう取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

脳卒中や心筋梗塞等の高度専門的な治療が必要な病気を発症したときに、休日・夜間の受入機能の維持は何があっても守っていかなくてはならないと思いますが、こちらに関してもいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

市民の皆さんが、この糸魚川で安全で安心して生活を営んでいただくためには、繰り返しの答弁になるんですけども、医療体制の維持というのは必要になります。県の地域医療構想だとか、先ほどのフォーラムで県の位置づけ、糸魚川総合病院の位置づけも確認をさせていただいております。やはり一定程度、糸魚川地域においては、糸魚川総合病院で担うということが大切でありますので、安心・安全な医療体制の維持は、今後も努力をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

今、池田課長からは、医療体制の維持・堅持を目指して頑張っていくという旨のお話をさせていただいたんですけども、山岸院長先生のご講演の中に、もしその役割分担に対応していく場合は、救急車の長距離移動にも対応していかなければならないというお話をいただきました。今、糸魚川市としては、地域医療、糸魚川としての医療を守っていくという方向性は確認できたんですけども、救急車の体制づくりに備えるということは大切だと思うんですけども、その辺り対応というのは、万が一に対応することというのはできるようになるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

おはようございます。

お答えいたします。

消防本部では、通常、救急隊4隊で運用をしております。今ほど課題のありましたとおり、市外への救急搬送件数も増えていることから、救急搬送が、市外の救急搬送が重なった場合、救急隊の増強が必要となった場合、救急救命士、また、救急隊員の資格を有する日勤の職員、また救助隊員等で救急隊を編成いたしまして5隊目、今4隊あるんですが、5隊目の救急隊を編成する運用としております。

また、状況に応じましてドクターヘリに出動要請したり、また隣接する消防局、消防本部へ応援要請するなど、救急体制の強化を図っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

救急車の確保、救急車の救急隊の管理というのは、糸魚川市のやっぱり役割だと思っております。今、お話をお伺いいたしまして、想定等していらっしゃるということが分かりましたので、少し安心することができました。

では、次の質問に参りたいんですけれども、4月以降の分娩も休止の報道を受けて、未来永劫、糸魚川市での分娩が終了したと思っていらっしゃる市民の方も多くいらっしゃいます。市としては、引き続き医師の確保に向けて努力を続けていくという認識で間違いありませんでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

これまでもいろいろ折に触れて説明してきたところでありますけれども、糸魚川総合病院と連携し、そして、新潟県の全面的な協力をいただきながら、産婦人科医の確保に向けて、今も努力を続けております。正直、簡単なことではないということで承知はしておりますけれども、引き続き、産婦人科医師の確保に向けて取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

分娩の休止に伴って、市内で唯一の入院可能な小児科までがなくなることを心配しております。小児科確保のために、医療的ケア児の放課後等デイサービス、ショートステイ、短期入所、または障害児の過ごせる生活介護サービスの拠点として、「なでしこ」跡を活用して、糸魚川市で最先端



の小児科医療を受けられるようにするのはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今、「なでしこ」の活用について、ご提案いただいたというふうに考えております。遊休施設となっておる「なでしこ」については、病院とも隣接しておりますし、そうなりますと、利用者の方も安心して利用できるでしょうし、また、小児科医の医師も関わっていただいて、医師のやりがいにもなるでしょうし、とても提案とすればいい提案だなというふうに聞かせていただきました。その内容については、糸魚川総合病院にも、提案の内容については、おつなぎをさせていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

糸魚川市内での持続可能な医療構想の計画を策定して、市民に示す必要があると考えますが、そちらについてはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

市として、糸魚川版の地域医療構想の策定というのは、正直考えておりません。

しかし、今までも伊藤議員の一般質問にありましたように、将来の医療需要が減っていく。人口も減っていく。そして、開業医さんが高齢化していく。そういう現状を踏まえると、今から、もう検討しなければならない、対応していかなければならないという危機感を持っております。糸魚川総合病院と市と医師会と、そして新潟県が一緒になって、今、地域医療構想調整会議で医療再編の話もしておりますので、そこに今の会議体を位置づけていただいて、糸魚川にふさわしい医療体制、糸魚川の諸条件にマッチした医療体制については、今お話ししました関係機関、連携しながら考えていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

調整会議で糸魚川の医療について、今考えていただいているところだということなんですけれども、考えた先に、やはり市民にも示していただかないといけないと思うんですね。今のところ、糸魚川版の地域医療構想計画策定は、考えていないということだったんですけれども、調整会議の後、市民に示すために必要だと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

関係機関で協議をすると、その内容については、全てバラ色になるわけではないと思っております。

ただ、それをちゃんと市民の皆さんにお伝えしていくことはとても大事だと思いますので、折に触れて、タイミングを見ながら情報を伝達できる部分があれば、伝達をしていきたいというふうに考えてます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

地域医療構想のお話につきましては、行政の問題だけでない部分が多くあるので、大変難しい課題だと思っているところなんですけれども、引き続き、糸魚川の地域医療を守るためにご尽力のほう、よろしく願いいたします。

それでは、2、子育て支援のほうに移らせていただきます。

質問いたします。

糸魚川市において、子育て支援とは何のためにする支援なのでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

現在は、少子化ということで叫ばれておりますけれども、少子化の中であっても子供を育てる世帯に寄り添い、それぞれが抱える課題を解消することであることや、また一方、子育てには喜びであるとか楽しみといったものがございます。そういったものが持てるように取組を進めていくことというふうに考えております。

また、子育て世代にかかわらず、地域や社会が、そこに応援する。そういった意識を持てるようにすることも大切だというふうに考えておりますし、一過性のもではなく、継続し、循環をしていくことが大切であるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

よかったです。私も子育て支援は、人口減対策でも少子化対策でもないと思っています。その部分で、市としても同じようにお考えだということを今お伺いできて、少し安心しました。

それでは、糸魚川市が子育て支援、教育で目指す糸魚川で育つ子供たちの姿、理想の姿はどのような姿なのでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

鷹本教育長。〔教育長 鷹本修一君登壇〕

○教育長（鷹本修一君）

糸魚川で育つ子供たちの理想の姿は、どんな姿かということの質問だと受け止めました。

当市では、子ども一貫教育の方針でしっかり定めておりますけれども、グランドデザインの中に、気球に乗る子供がイメージされてます。そこでは、やっぱり学校、園、家庭、地域、総ぐるみで愛着形成、それから自己肯定感の育成、さらに自立支援というふうな、みんなが子供たちに対する愛情を、そんな視点でもって応援をしてあげて、最終的に18歳で自立を目指すというふうな子供を目指しています。それが理想の姿です。その中に、欠かしてはいけない内容として、私どもは、ふるさと糸魚川にやっぱり愛着を持って、自分たちのふるさとを自慢できる。そして、ここで育つてよかったというふうな温かい思いを、糸魚川市に対して持てるような子供、すなわち、自立して、ふるさと糸魚川を愛し続ける。そんなふうな子供たちを育てたいというふうな思いで、グランドデザインに掲載し、その実現を目指して、今現在進行して頑張ってる次第でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

それでは、（1）について質問いたします。

子ども医療費の無償化であるとか、来年度、新たに拡充予定のサービスもあるということで期待しております。

そこで、お伺いしたいんですけれども、令和4年第5回定例会9月議会の中でもご提言させていただきましたが、産前産後ヘルパーサービスの事業と、あと母乳相談費用助成についてなんですけれども、こちら利用回数や時間の制限が定められています。その制限を撤廃して、必要な人が、必要な時間、必要な回数だけ使えるように支援を見直してはいかがでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

産前産後ヘルパーにつきましては、昨年度、令和3年度の利用実人員は4人です。この4人の年間総利用時間数というのが約70時間でありまして、現在まで1人当たりの上限80時間に達しているということはない状況ではあります。

また、母乳相談の費用助成につきましても、上限3回まで使われた方につきましては少ない状況であり、令和3年度は5人というふうな実績となっております。

母乳の相談につきましては、新生児訪問であるとか、おっぱい相談、産後ケアの訪問型を使いまして、無料で受けられる支援も併用していただいているような実態もございます。今後も、利用状

況であるとか対象者のニーズを把握しながら、使いやすいサービスとなるように検討してまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

産前産後ヘルパーサービス事業についてなんですが、実際、もっと利用可能時間があれば、仮眠も取ることができたかもしれないというお声を頂戴しております。連続で利用できる時間が、3時間までと決まっているんですね。なので、その利用の仕方だったりだとか、もっと細かな声を拾っていただきたいと思うんですけども、実際にこういう声を頂いています。その上で、今後どのように検討されていかれますか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

産前産後の様々なケア、サービスにつきましては多くありまして、こういったのがあるとは知らなかったとか、そういった声も頂いております。それぞれ時間の経過とともに受けられるサービスが異なってくるわけですが、そういった中で、今ほど議員のほうからも使い方についての、まだ理解が進んでないという部分も、私どもしっかり受け止めさせていただきましたので、上手な利用方法といたしますか、逆に遠慮せずにといいか、そういったものを申入れしやすい、相談しやすい体制づくりに改めて努めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

母乳相談についても同様で、本当に全く必要ない人もいれば、何回も何十回も必要な人もいらっしゃいます。そういう何十回も必要な人に利用していただける制度設計に変更していく検討をしていただきたいんですが、そちらに関しましてはいかがでしょう、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

それぞれ産前産後の悩みといたしますか、持ってる課題といたしますか、人それぞれ異なるものだというふうに認識しております。そういった中で、今ほどの回数制限があったり、ほかにも無料でできるサービスというのがありますが、そういったものも十分活用する中で、そういったお困りな方の声をしっかりと聞きまして、対応できるものにつきましては、対応してまいりたいというふうに考えておりますし、改めて、そちらのほうの声というのをしっかりとつかんでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

検討していただいて、検討した結果をまたお知らせいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

2月23日の新潟日報で、市内の妊婦さんの生の声が報道されました。自ら運転、県境を越え、通院と大きく書かれておりました。令和4年9月議会、12月議会でも同様のご提言をさせていただいておりますが、妊婦本人が運転して通院することは、事故だけでなく、急ブレーキなどでハンドルがお腹にぶつかることで流産などにつながるリスクがあることを教えていただいております。また、ほかの妊婦さんのおられるご家庭の方から、交通費など助成してほしいと、お声を頂戴しております。

令和4年12月議会で嶋田こども課長から、通院費用についての助成は、出産祝い事業に含めたとご答弁いただいたところでしたが、やはりそれでは、市民には伝わっていないというのが現状です。別途、通院費の助成についても検討するお考えはありますか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

今回、糸魚川総合病院で、この3月から分娩が休止することに伴いまして、私ども、今回、支援策を検討するに当たりまして、遠方、例えば上越市であるとか富山県に通院する際のガソリン代であるとか、高速代の交通費を検討課題に入れたところでもあります。

そちらのほうの支援策につきましては、それぞれガソリンなり、高速道路の料金が発生するというところで、各家庭の負担が伴うということを鑑みまして、そちらを軽減するという意味を込めまして、子ども誕生祝い事業といたしまして、お一人5万円を3月から追加をし、新年度につきましても予算をお願いしているところでございます。こちらのほう、これまでも上越や富山のほうを使われてた方もおられますし、今後は市外を使わざるを得ないという状況もありますので、実情を把握する中で、必要性につきまして、改めて検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

私、気になっているのが、その出産祝い事業に含めるというところで、出産に至らなかった場合は、助成の対象にならないということになってしまうと思うんですね。その部分なんですけど、出産に至らなかったら助成する対象にならないということなんですか、すみません、聞かせてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

妊娠をして、出産に至らなかった場合には、子育て誕生祝い事業のほうの対象にはならないというところがございます。

ただ、今回の国のほうの支援の中で、例えば出生届に至らなかった場合、戸籍上の出生届を出した以降、亡くなられた場合には、そういった部分については対象となるということになっておりますので、そういった部分で対象となる部分につきましては、そちらのほうを紹介してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

すいません、ちょっと分かりづらかったのでお伺いしたいんですが、出生に至らなかった場合は、国からの何か助成金があるということなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

今回の国の伴走型支援、経済的支援の中で、妊娠時に出産のお祝いギフト、また出生時には子育ての応援ということで経済的支援を設けたわけですが、今回、国のほうの制度の中では、例えば出産をされて、その後例えば亡くなられたような場合であっても、例えば戸籍上の出生届が必要な場合があります。そういったときには、国のほうの応援ギフトのほうの対象になるということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

今ほど伊藤議員おっしゃってる中身は、恐らく、私も妊娠祝い事業のほうに含めるほうが正しいんだというふうに思っています。子ども誕生祝い事業のほうではないというふうに思っています。それで、その趣旨は、個々にやはり通院費を積み上げて申請をしていただいたり、また事務費も事務の手間もかかるものですから、そういったものを一括、包括的に妊娠祝い事業等の中で支給するほうがよいのではないかという今の中の検討でございます。その額が適切かどうかというのは、ちょっと状況を見極めて、必要に応じて、また拡充等を考えていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

おっしゃるとおりだと思います。妊娠お祝い事業に含める、交通費も含めるというのであれば、私も何かすつと落ちたなというか、感じました。

ただ、妊娠お祝い事業に交通費も含んでるんだよというのを、やっぱりきちんと妊婦さんにご理解いただくということも必要だと思いますので、その部分は重ねてお願い申し上げます。

もう一つお伝えしたいんですが、今議会初日に即決で審議された出産・子育て応援事業の情報を共有した際に、物価高騰、光熱費も高くなる中で、手取り13万、母子手当5万、その中でアパート代、お子さん2人分の習い事、携帯代などで苦しい。お米、乾麺、お菓子やそういうものがもらえるだけでも助かるというお声を頂戴いたしました。

出産された方だけでなく、今、子育てをしていらっしゃる子育て世帯で、かつ、そのように困っておられるご家庭もございます。物質的になのか、金銭的になのか、何かしらの支援が必要なご家庭に、市内にこういうご家庭が、実際存在しております。そういうご家庭に対しての何か支援策というのは、検討されているでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

これまでも独り親家庭の世帯に対しましては、様々な支援制度、助成制度を設けてきたところでございます。そのような中、今、議員おっしゃいます物価高騰であるとか、光熱水費が上がっているというふうな状況もございます。そういった中では、これまでも国のほうの給付金を活用したりということで支援をしてきておりますが、改めて今後の状況を注視しながら、独り親家庭だけがいいのか、子育て世帯までも考えたほうがいいのかといった対象世帯も含めまして、そういった状況のほうを把握をしながら、できる支援については検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

続いて、お伺いいたします。

市として把握している子育て支援の課題は何でしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

先ほど来、少子化ということでお話させていただきましたが、少子化の中であっても、それぞれ

が抱くニーズというのが多様化しているような実態がございます。そういったニーズを一つ一つ解消していくところに、今、全てに行き渡ってるかといいますと、まだまだ十分でない部分も見受けられますので、そういった細かなニーズに対応できるような形で、まず、ニーズの把握に努めるとともに、こういったものの課題解消に努めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

ニーズが多様化していった、それをまず把握するところから始める必要があるというご答弁でした。かねてから、ずっと行政の課題としてもあったと思うんですけども、室内遊戯施設の整備についてお伺いいたします。

今の子育て世代にとっては、あしたにでも欲しいという要望がずっと前からあったものだと思うんですけども、今、計画されている駅北の子育て支援複合施設は、令和9年度整備予定ということなのですが、それを待たずとも、例えば既存の施設で仮設的にでも構いませんので、既存の施設を開放するだけでも喜ばれると思うんですけども、それについてはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

これまでも子供を育てる家庭に対するアンケート調査の中の自由意見の中でも、屋内遊戯施設、糸魚川市のように天候が悪い時期であっても、屋内で遊べる施設の設置というのは望まれております。今年度、移動式の遊び場ということで、市内3会場におきまして、それぞれ遊具を持ち込んでございますか、設置をしまして、「アソビバ」というのを実施してきております。各会場とも100名ほどの方が参加をされている実態がございまして、令和5年度につきましては、そちらのほうも6回程度ということで、増やす予定としております。そういった利用状況であるとか、参加された方の意見も踏まえまして、そういった屋内遊戯場の仮設とございますか、そういったことができないかどうかにつきましては、状況を見る中で検討してまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

確かに、その移動式の「アソビバ」の実施の回数を増やしてほしいというお声も頂戴しております。そっちの回数を増やすというのもいいと思うんですけども、駅北の子育て支援複合施設の計画と並行して、その室内遊戯施設、そういう常設の場所が欲しいというニーズが昔からあったと思うので、そちらについても並行してお考えいただければと思います。

それでは、（2）についてお伺いいたします。

発達支援センターめだか園について、施設の拡充が求められているとのことですが、施設を拡充



することで、どのような支援が利用者に還元できるようになるのでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

まずは、保護者の方にお子さんの発達、例えば遅れであるとか特性につきまして、十分ご理解いただくことが重要というふうに考えております。十分なご理解を得た上で、不安なく発達支援をスタートすることが望ましいため、言語聴覚士であるとか、臨床心理士などの発達相談の充実は、必須であるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

保護者に理解いただくのは、大切だと思います。人的な、専門的な知識のある人の配置というのも大切だと思うんですが、今、発達支援センターめだか園を、面積的に広げたいというお話があるのかと思っているんですが、面積的に広げることで、どのような支援が利用者に還元できるようになるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

現在、限られた面積といいますかエリアの中で、支援員のほうも工夫をしながら実施をしているところでありまして、そういった中で、広げることによりまして、受入れの人数のほうも確保できますが、そういったものにつきましても、支援体制の充実と併せて行っていかなければならないというふうに考えておりますし、それぞれ各種年代に応じまして教室を設けておりますけども、そういったものも実態としまして、お断りしてるような実態がございますので、そういった部分につきましても、人的体制と併せまして、整備のほうといいますか、充実を図ってまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

めだか園の拡充についても、令和9年度まで待っていていいのかなというふうに思うんですけれども、そちらに関しては、並行して何か対応するようなお考えとかというのはあるのでしょうか。令和9年度、新しい施設ができるまで、めだか園は、このままの面積でいくのか。それとも、何かできることがないのか模索していくのか、その辺りお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

そちらのめだか園のほうの充実等につきましても、喫緊の課題というふうに捉えております。そういった中で、今後の利用人数であるとか利用者の状況を見る中で、そちらにつきましても、適切に対応してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野教育次長。〔教育次長 磯野 豊君登壇〕

○教育次長（磯野 豊君）

めだか園の手狭な問題、以前からございまして、とりあえず、中の建具を少し改修するだとか、そういったところで今何とかやっているとあります。

また、先ほど教室の利用者といいますかね、お断りしているというような現状があると申し上げましたが、そこは、臨床心理士や職員が、保育園、幼稚園に巡回をしまして、その保育園、保育士が、療育の一部を担ってくれているといった実態がございまして、決して、今、保育士も不足している中で、そういった負担というのは、負担を強いるというのは正しくないというふうに思っておりますので、何とか広げて、職員体制も充実をして、適正な療育をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

めだか園を広げるために子育て支援センター、併設されているものを移動するというお話なんだろうと思うんですけど、今、取り急ぎで広げていくというのを検討していくときに、その子育て支援センター機能を今、暫定的にどこかに移したりすることってできそうなんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

先ほど令和9年度というお話も出ておりましたが、めだか園の拡充、充実に伴いまして、子育て支援センターと隣接しておりますが、そちらのほうにつきましても、現在の場所がいいのか、また、どちらかの空きスペースを利用できないかということも考えられますので、そういった部分につきましても、今後のまた動向も含めまして、注視するとともに、子育て支援センターの仮設といいますか、移動につきましても、状況を見ながら判断してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

先ほど屋内遊戯施設の話、それからめだか園の拡張の話だと思うんですが、今、子育てをされておられる方のニーズにやっぱり応えるというのが、一番大事だというふうに思っています。ちょっと慎重な答弁に、こども課のほうなっていますが、前向きに検討して、早急に課題解決していきたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

今、副市長から前向きに、早急に検討していくというご答弁いただきましたので、また、私からもしつこく何度も聞いていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

もう一つお伺いします。

ひすいの里総合学校に設置されている放課後等デイサービスの運営状況について、課題と取組の状況を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯貝福祉事務所長。〔福祉事務所長 磯貝恭子君登壇〕

○福祉事務所長（磯貝恭子君）

お答えします。

放課後等デイサービス事業は、就学している障害児に授業の終了後、または休業日に、生活能力の向上のための訓練や社会との交流、その他の便宜を供与する事業とされております。

市内では、支援センターささゆりが、ひすいの里総合学校を会場に、このサービスを実施しております。現在、事業所が市内に1か所であり、保護者の就労状況などを勘案して、そのサービスの支給量を決定している状況がありまして、保護者の方の100%の希望に必ずしも応じているとは言えないと捉えております。

そのような中で、今年の4月から市内に新しく放課後等デイサービス事業所が事業を開始する予定でありますので、これによって保護者の選択の幅が増えるのではないかと期待をしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

所長からもお話ありましたが、放課後等デイサービスって、これ利用する子供たちの自立を支援する役割のもので、保護者の就労支援ではないんですよ。なので、就業状況を鑑みながらという時点で、足りてないというのが糸魚川市の実情なのだと思います。少し拡充予定、民間の方が参入していってほしいということ期待しておりますが、サービスの受給日数におきましても、今、市内

にサービス利用できる場所がなかったので、少ない日数の付与で足りていたという実情もあると思いますので、受けられるサービスが増えたということは、付与する日数も増えていくということかなというふうに私は理解しております。その部分、サービスの利用日数決めるのは、福祉事務所でになると思うので、その部分のお考えだとか、その辺りはいかがでしょうか、お伺いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯貝福祉事務所長。〔福祉事務所長 磯貝恭子君登壇〕

○福祉事務所長（磯貝恭子君）

お答えします。

支給量の決定につきましては、相談員の方が、その方の保護者の方とか相談をする中で、必要な支援を決めてまいります。その中で、例えばこの人は新しい事業所のほうがマッチするんじゃないかとか、この人は今までのところで日数を確保したほうがいいんじゃないかというような話の中で調整をする形になりますので、一人一人の事情によって、なるべくそのニーズに合った支給量が決定できることと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

（3）に移ってまいります。

前回、12月議会で学区の撤廃についてお話させていただいたんですけれども、鶴本教育長から、学区の撤廃については、長期的な課題解決の一つのテーマであるというご答弁を頂いております。その後、小野こども教育課長とも意見交換させていただいた際に、市内の小中学校の学区全てを撤廃した場合の懸念点だとか、難しいところを丁寧に教えていただきまして、私も大変難しいということを理解ちゃんとしました。

それで、ただ、当市においては、超人口減少地域と言っても過言ではありません。既存の子育て支援施設、学校教育施設は、現実的には減っていくことが、容易に想像することができるわけでありまして。

そこで、市の財政事情を踏まえての適正配置で学校を減らすのではなくて、子育てする人を当事者の子供にとって何が最適なのかの視点で議論を進めてほしいと思います。

冒頭、教育長からも子供たちの自己肯定感だったりだとか、あと健康であって、あと地域に愛着を持つというお話をさせていただいたんですけれども、教育を受ける子供たちにとって最適な学校規模は、どの程度のものなのか、市としてのお考えを伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小野こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 小野 聡君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（小野 聡君）

お答えいたします。

糸魚川市では、平成23年度に糸魚川市立小中学校の適正配置についてを策定しまして、適正規模についての目安を決めております。そちらの基本方針では、小中学校の適正規模の基準を12学級以上、18学級以下としております。これは国の基準とも結びついたものなんですけども、実際の市の基準、今あれですね、現状の小学校、中学校の規模となかなか合致した部分ではない実情がございます。児童生徒数の減少もありまして、現在、複式学級の解消を目指しているところでありまして、5学級以下の学校を減らしていくというふうな部分を目指しているという現状でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野教育次長。〔教育次長 磯野 豊君登壇〕

○教育次長（磯野 豊君）

今ほど課長のほうから複式解消というところで、ご答弁いたしましたけれども、複式解消というのは、やっぱり子供の教育環境にとって、やっぱり複式というのはなかなか難しい部分があるということで、今、複式解消と申し上げましたが、ただ、市としては、やはり無理に複式を解消に進むということではなく、やはり学校の統廃合というのは、地域の拠点となっている学校をどうするかと。地域の声も十分に慎重に聞いて、判断をするという必要があるというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

靄本教育長。〔教育長 靄本修一君登壇〕

○教育長（靄本修一君）

複式の解消というふうな話が今ちょっと出ましたけれども、子供たちの学びにとって、複式学級が全て悪い環境であるというようなことの捉えは、私どもはしていません。少人数だからこそ、居心地がよくて、自分らしさを発揮できて、そして、自分の特性をうんと伸ばせるというふうな環境も複式の中にあるわけです。ですから、一概に学校の整理、適正配置というような形でもって、複式を短絡的にやっぱり考えるというふうな部分については、もうちょっと慎重になったほうがいいかなというふうに思ってます。あくまでも子供たち、子供自身の学びが、どんな環境が一番学びやすいのかというふうな部分のところを優先的に考える必要があるな。あわせて、保護者がどういふふうな環境を望んでいるのかというふうな部分も、この検討の中には尊重しながらやっぱり進めていくというふうなスタイルが求められるのではないかなというふうに私は考えています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

ありがとうございます。私も複式学級経験者なので、今のご答弁をお伺いして、安心しております。

ただ、自然の流れだったりだとか、あと地域の声に任せていると、やっぱり中山間地域の学校から順番になくなっていってしまうだけになってしまうと思います。

そこで、私からは、特区学校を指定する。例えば小さい学校、根知でやってる親子ワーケーションとか、あと磯部小学校も大変校舎がきれいで魅力的な学校です。そういう学校を特区学校に指定

するという案と、あともう一つ、義務教育学校の可能性についてもお伺いしたいと思うんですけれども、この2つについて、市の見解をお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小野こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 小野 聡君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（小野 聡君）

お答えいたします。

特区学校という部分、議員のおっしゃるような特色ある学校づくりに取り組むという、そして児童数の減少等に対応していくというアイデアは、大変すばらしいアイデアだと思いますが、まず、やっぱり今も行っていますが、しっかりと魅力ある学校づくりを進めるということが重要になりますし、特区をどのように進めるべきかというふうな調査や研究をしっかりと行うこと。地域や保護者の皆さんとも協議する中で、丁寧に進めていくことが大事ではないかなと考えております。

また、今お話にあった義務教育学校につきましては、小学校、中学校の義務教育期間、9年間となりますが、それらを1つの学校で学ぶことのできる学校となります。今、小学校は6年間、中学校は3年間となりますが、その9年間を柔軟に学年制を変更することができるために、先を見据えた学習活動ができるというふうなメリットがございます。

議員おっしゃるように、糸魚川市への導入も考えられる部分ではあると思うんですが、やっぱりまずは、そういったメリット・デメリットの辺りをしっかりと調査研究を行いながら、先ほどと重なりますが、地域や保護者の皆様の思い、そういったものを丁寧に聞き取りながら議論を進めていくことが大事かなと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

義務教育学校につきましては、土浦市立新治学園義務教育学校を視察してまいりました。そこで聞いたお話だと、やっぱり開校するまで7年ほど、協議会の設置をしてから時間を要したということで、今、課長からも調査研究を丁寧にした上でというお話ありましたが、調査研究しているうちに学校が全部なくなってしまうということがないように、早めから、今すぐにでも、その議論というか調査研究、あと地域と相談というのを、もう今すぐにでも始めていただきたいと思っておりますけれども、その辺りいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

轟本教育長。〔教育長 轟本修一君登壇〕

○教育長（轟本修一君）

お答えいたします。

今すぐというような部分については、非常にハードルが高いというふうに私は思っています。

それで、先ほどの話にもちょっと戻りますけれども、特認校、特区校というふうな提案がありました。その辺の部分については、先ほど、こども教育課長も話しましたように、各学校は、それぞ

れに特色ある教育活動の展開のために、地域と共に何とか自分たちの学校の特色を出そうというふうな部分で、特に積極的な教育活動を展開しています。まさに木浦小学校がそのとおりのように、小さな学校は小さな学校なりに頑張っているというような部分のところを認めながら、特区校、特認校として存続できるかできないかというような部分のところと同時に、どういう特色を旗揚げをして、ここに、この特認校あり。糸魚川での特認校はこういう特色を持っているというような部分のところを強く打ち出せるような形の環境づくりと同時に、教育活動のカリキュラムづくり等も相まって、やっぱりつくっていかなくちゃいけないという部分があります。そのような部分で、地域の皆さん方との懇談のような機会に、そのような部分をちょっとずつ話しながら、一気に行政がその話を持っていくということよりも、今後の学校の存続について、どんなふうな考え方を進めていったらいいだろうかというふうな懇談の場を大事にしながら、意思疎通、情報提供、その辺の部分の情報提供については、教育委員会のほうが積極的に、こんなふうな方向でというような部分の情報提供のほうは、させていただきたいと私は思っています。その辺の部分のところから進めていながら、小さな学校の、特色ある学校に学びたいというふうな生徒が、子供たちがいる場合については、特認校を設置して、特認校に自分の通学校区でなくて、離れた学校に行っても、そこで学びたいというふうな子供の気持ちを尊重するような教育制度については、糸魚川市でも積極的に、今後、検討していく必要があると私は考えています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

私は、小さい学校を残したいんですね。なので、早めから、ぜひ今ご答弁いただいたように、議論、検討のほうよろしく願いいたします。

（4）について、2回目の質問を行っていきます。

2月23日に締切りになったパブリックコメントで寄せられたご意見は、どのようなものがありましたでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

期間中に24名、このうち1つは団体でございます。から、パブリックコメントということでご意見を寄せていただきました。現在、寄せていただいたご意見の整理、対応案を検討中でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

締め切ったばかりなので、しょうがないのかなとは思いますが、行政の3巡意見聴取含め、市民からの声に向き合おうとする姿勢は、私は評価したいと思っております。今回のパブリックコメントへの意見だとか、後は議会の意見を十分に反映させた計画にしてほしいと考えております。

この地域の復興は、キターレとこの施設ができて終わりなのかと、お声を頂戴いたしました。駅北地域は、都市機能集約化と子育て世代が活動しやすい場所へのご答弁を頂きましたが、直近の計画であると理解しております糸魚川市駅北まちづくり戦略の実践の拠点とも言えるキターレと、この戦略の成果とも言えるテレワークオフィスなどによって生まれた経済効果について、大火前と比較して、ご答弁いただけますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えをいたします。

大火以降、あそこの駅北エリアで、t h r e a dさんですとかDONUTSさん、あとデンカさんの北信越オフィスなど、企業系では、大体年間に直しますと2万6,000人程度が新たに働き始めております。また駅北広場キターレでは、いろんなご利用で、年間1万4,000人。今現在、まだ伸びている状況ですが、合計しますと4万人の方が、あそこに往来をしている状況ということでございます。

ただ、それがにぎわいですとか経済効果というところ、特に経済効果に関しましては、以前、議員からもご指摘いただいた件でございまして、今現在、それを数値として測定してはございません。地価ですとか通行量、あと居住人口とか、こういう指標を設定して測定をすることで、皆さんとそういうにぎわいとか経済効果というものを共有できる状態を目指してまいりたいと思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

以前、五十嵐課長と意見交換させていただいたときに、地域からかわいがられる施設にしたいとお話をいただきました。子育て世代の皆さんも同じように言っていて、みんなが幸せになれる施設にしてほしいというふうに言ってくれておりました。

駅北地域の復興まちづくり計画を遡って確認すると、平成30年は多世代向けサービス機能を持つ拠点となっていて、令和元年に子育て支援機能を持つにぎわいの拠点というふうになりました。この変遷の中で、駅北周辺にお住まいの方とかご商売をしておられる皆さんから、この地域を子供や若者が訪れるまちになることについて、ご理解、応援、ご協力というのを頂くことはできているのでしょうか。この施設を設置して運営する上でも、最も大切だと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕



○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えをいたします。

この拠点複合施設を造る目的は、大火からのにぎわいのある、あと住み続けられるまちの実現ということと、何とか駅北地区をどうにかしたいというところが、まずございます。

もう一個は、これは大火以前から子育てに対するいろんなご要望というのを頂いておりまして、それが合わさったという部分でございます。

ただ、地元としましては、これは大火の直接の被害者でもございますので、大火直後から情報提供なり、この困り事のお聞き取りをしたりする中で、この施設に関しまして、敷地的には井上商会さんの跡地だけだと狭いですとか、そういう広さに関するご要望ですとか、あと機能的にはミニコンビニ、温浴施設、図書コーナーとか、あと海を見れる展望台とかいったようなご要望、あともう一個、これ少し非常に大事な意見なんですけど、地域の関わりがないと、ただの騒がしいだけの施設になってしまうので、当然お年寄りへの配慮ですとか、施設の管理運営にも地域の人の声をぜひ取り入れてもらいたいというような、そういう運営に対する、これは非常に温かいというか、背中を押していただけるようなご要望も頂いております。ご意見を頂いております。そういうものを極力、基本計画とその先の運営の在り方について、検討しながら、節目節目で皆様にお示ししながら、今後も進めていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

総工費についてもお伺いしたいと思います。

予定では、約15億円とのことなんですが、長岡市子育ての駅「てくてく」という施設があるんですが、こちらは建築工事費で約4億円、子育てセンターが中にあるオーレンプラザは29億円、こっちは公民館の移設の計画でできている建物なので、公民館機能を有しているというものなんですが、今、子育て支援複合施設は、図書機能とギャラリースペースがあるんですけども、市内に図書機能とギャラリースペースって、もうあると思うんですよね。既に存在しているのと同じものを、またここに造る必要があるのかどうかお伺いしたくて、その既存の施設とは、ここが違うんだというものがあれば、お聞かせいただきたいです。お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

穂苺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苺 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苺 真君）

お答えをいたします。

既存の施設、一般的なその図書館であれば、静かな図書館というのが皆さん印象に持たれてるかと思いますが、ここは子育ての支援施設であるということ、それから多世代の方が交流をされる

という場所でもありますことから、やはり少々騒がしいといたしますか、にぎやかなところであつてもよいのかなというふうに考えを持っておりますので、既存の施設とは、そこが大きく違うのかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

ギャラリースペースについては、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山本文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 山本喜八郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（山本喜八郎君）

お答えいたします。

今、ギャラリーについて想定しているものでございますが、美術展など企画展の開催や、それから子育て世代、それからの地域団体の皆さんが、気軽にお立ち寄りできるようなにぎわいを創出するスペースを想定しているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

コミュニティスペースとしての図書機能であれば、私も大賛成です。岐阜市立中央図書館の紹介いただいたんですが、こういう図書館であれば、私も大歓迎だなというふうに思いました。今、ただお伺いしたイベントギャラリースペースの部分は、ちょっとまだ弱いのかなという感じがいたしました。もし必要のないスペースなんであれば、もう少し建物の規模を小さくするとか、そういうこともできるのではないかなというふうに思うんですけども、その辺り、今後どのように検討されていくんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えをいたします。

今ほど、この施設の運営いく前に、機能だけでも3人の課長が、ばらばらにここに立って説明しているというような状況で、これ大変まだお恥ずかしい状況ですが、基本計画として、その敷地とか機能の在り方というのを今定めていると。それで、これからの皆さんにパブリックコメントの結果等をお示ししていくという段階でございます。今、議員の御指摘の煮詰まったらんなら要らんのかなとか、当然、これからそういう中でのダイエットといたしますか、そういう部分は、ダイエットとかブラッシュアップというのを当然していったって、実施の計画づくりというものを進め

ていかなきゃいけないもんだというふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

私、この計画拝見させていただいて、もう一つ気になっているのが、障害児のお子さんにとっても使えるような施設になっていくのかどうかというところが気になりました。近隣の室内遊戯施設へ遊びに行きますと、遊具に子供たちが興奮して、結構激しい動きをしたりしているので、医療的ケア児の子たちが利用するのは難しいのかなとは思いますが、その辺りの想定は、どのようになっているのでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

障害のあるお子様が、こういった施設を利用する場合、その方の状況によつての判断となりますが、特に体調面だとか、そういった部分で問題がない場合につきましては、利用のほうについては進めていきたいというふうに考えておりますし、障害のある方だけを個別にするというわけではなくて、障害のある方も、ない方も一緒にいることで、もちろん障害のある方は、保護者の方もみんなと一緒にというふうな一体感も生まれるでしょうし、また障害のない方から見た場合には、そういった方も社会と一緒に進んでいくんだというふうな部分での、お互いのためにとってもいいものになるかというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

糸魚川市の子育てにおいても、この施設だけで完結ではなくて、例えば先ほど「なでしこ」の話しましたけれども、障害を持つお子さんとそのご兄弟を、例えば「なでしこ」に遊戯スペースがあるとか、そういう形で地域の糸魚川市としての子育ての拠点となるような、ここをスタートに、どんどん子育ての輪が広がっていくような施設にしていきたいと思っております。

この施設に期待することを教育長と市長、それぞれのお立場からお聞かせいただければと思います。お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

靄本教育長。〔教育長 靄本修一君登壇〕

○教育長（靄本修一君）

それでは、教育分野担当の立場から話をさせていただきます。

糸魚川市は、ゼロ歳から18歳までの子ども一貫教育というふうな部分を大事なよりどころにしながら、子供たち等を育てていますけれども、その土台となる部分のゼロ歳から3歳、4歳から6歳、そういった乳幼児、それから幼児、園児というふうな部分のところを管轄する、そこが占める子育て支援と教育分野の割合が、物すごく大きな部分を、役割を果たすというふうに私は位置づけております。その意味合いからしますと、やっぱり今ほど国でもそうなんですけども、こども家庭庁ができたり、こども基本法ができたりというような形で、今まで経験してこなかった、少子化に向けた子供を真ん中にして、子供をいかに大事にしながら育てていくか、あるいは子育て支援をしていくかというふうな部分が、国レベル、県レベル、市レベルで、私は求められている大きな変革点だと私は捉えています。

その意味合いからすると、今回計画中的子育て支援施設につきましては、やはり安心して、子供が遊べる。居場所になる。安心して、保護者あるいは支援者が、そこで交流ができて、相談に乗ってもらって、そして子供を預けて、自分の子供の相談をじっくりできるというふうな部分のスペースにとっては、何よりも子育て世代にとっては安心し、そしてその環境の中で自分の悩みを解消して、そしてまた明るい気持ちになって、子供たちの支援に回ることができるというふうな、居場所であり、相談サービスがあり、そして子供たちと一緒に交流できるというふうな部分に位置づけるということになれば、それこそ最適な施設になるのではないかなというふうに考えています。絵本を取ったり、読み聞かせがあったり、いろんなその子育てのイベントが開かれたりというふうな部分のサービス機能も、適宜計画する中で実施していけば、みんなのよりどころになる。そういった施設になってほしいなという期待も込めています。

したがって、今計画しているその施設につきましては、一つの糸魚川市の拠点になって、今ほど議員さんがおっしゃったように、そこで1つで完結するんじゃないんだけど、いろんなその情報がそこに集約されて、そしてその情報がいろんなその関係機関に広がって行って、それが糸魚川市の子育て世代の安心してできる、そういった体制が構築できるのではないかなというふうな部分で、ぜひ実現をさせていきたいというふうな熱い思いを持っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まずは、やはり駅北復興まちづくり計画の目的達成のために、しっかりと取り組んでいかななくてはいけないと思っておる次第であります。そしてその上で、そこにある、そこにまた入り込んでいく事業、活動については、目的をしっかりと明確にしながら進めていきたいと思っておりますし、達成のためには、行政、そして住民や市民の皆様方と連携をしっかりとらせて捉えていきたいと思っております。基本的には、やはり住み続けられるまちに向かって進めていける施設に持っていきたいということで捉えておりますし、そして、やはりこれは子供たちだけではなくて、市民全体が愛着と誇りを持つ市民であり、そして、子供たちであり、教育の中で取り込んでいきたいと思ってる次第であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

これで質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。

ここで暫時休憩いたします。再開を35分といたします。

〈午前11時30分 休憩〉

〈午前11時35分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、渡辺栄一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。〔8番 渡辺栄一君登壇〕

○8番（渡辺栄一君）

おはようございます。渡辺栄一でございます。よろしくお願ひ申し上げます。

市民の皆様方をはじめ、いろいろな方々のお知恵を賜りながら、稼げる町、人口増を目指し、活動することで、当市の翠の交流都市、さわやか、すこやか、輝きのまちへ寄与してまいりたいと存じております。

発言通告書に基づき、1回目の質問を行います。

1、糸魚川市へのUIターン及び移住者への取組について。

昨年10月以降、当市の人口は4万人を割ってしまい、その後も毎月減り続けて、止まるような兆し・気配が見られず、大変憂慮すべき事態となっています。当市内からというよりは、外部からの移住者を増やす方策が必要不可欠と考えられるが、今後の支援策も含めて伺います。

- (1) 現状をどのように認識し、増えない原因、すなわちUIターンや移住者のネックになっているものは何だと捉えているか。
- (2) 転入、転出者の主な理由を把握しているか。
- (3) 今年度、UIターンや移住者向けの支援制度を利用した成功事例は何件あったのか。また、有効にマッチングしていると考えられるか。
- (4) 1月に東京で行われた「JOIN移住・交流&地域おこしフェア2023」の反応はどうか。相談の件数及び相談者に対するフォローを今後どうするのか。
- (5) どの自治体も一定の制約下にあるので、勧誘条件が軒並み同じになる傾向にあるが、何か「目玉」になるもの、「うちの売りはこれだ」というものを考えているか。